

# 第七十回俳句大会選考結果

## 特別選 「夏季雜詠」

### ◎人位

武器捨てるように胡瓜の花落ちる

金子 兜太 氏選

青 森 守田 啓子

### ◎佳作 (20句)

骨太の反戦の文字麦藁帽

弘 前 大瀬 響史

握飯てふみちのくの大手毬

十和田 日野口 晃

滝壺にまよふ事なく落つる滝

十和田 佐々木寿子

青田なか鏝のごとひとり立つ

青 森 今 留里子

海鞘食うて前頭葉を軽くせり

八 戸 田村 正義

虎刈りに泣き笑ひした母と夏

弘 前 秋山 邦男

バルザック全集埃被りて晩夏なり

青 森 岡部 文子

夏草や軍馬補充部在りし町

十和田 目時比呂子

めまとひを払ひつ山の神楽殿

岩 手 阿部ゆき子

同郷といふだけのこと心太

八 戸 黒田 長子

【評】気づきのおもしろさがある。手を上げて降参し、武器をぽんと投げるような風景が見えてくる。

る。

### ◎天位

語り出す母の戦や蟬時雨

三 沢 阿久津凍河

【評】類想があり、戦がもつと具体的であればよいが、母には苦勞がつきまとうものと痛感。17歳

で私を産み104歳で亡くなった自分の母親を

思い出した。作者に感謝したい。

### ◎秀逸 (5句)

太陽と君を浜辺で追いかける

青 森 谷本 桃子

海鞘裂きて訣別決めし夜もあらむ

弘 前 高野万津江

どつくどつくと脈打っている大青田

野辺地 後藤 瑞江

焦げくさき昭和の記憶遠花火

弘 前 阿保 子星

蟬時雨ふくらむたびに雲湧きし

青 森 阿部 康子

### ◎地位

青田波青田の沖を千空師

弘 前 桜庭 恵

【評】私は(成田)千空が好き。「青田波青田の沖」に千空は必然ではないが、千空を尊敬している人

間が千空で遊びの句を作れるのは青森だからこ

そ。

特別選「夏季雑詠」

顔よりも名前を忘れ汗を拭く

五所川原

松宮 梗子

青りんご戸主となりたる次男坊

八戸

小野寺和子

泳ぐこと人魚と共に踊つてる

青森

砂東 元氣

向日葵や婆と呼ばれるいわれなし

青森

中谷 恭子

紫陽花の襲撃を待つ姉の村

黒石

志村 肯陽

語り部の皺ふかぶかや夏帽子

十和田

下山 延子

いずこより見ても正面土用波

平内

船橋 久枝

父卒寿母米寿なる端居かな

秋田

富樫 風花

臍の水こぼさぬやうに蓮一葉

弘前

小田桐妙女

古代蓮しつかり結ぶ靴の紐

岩手

南 その子

宿題 「夜店」

草野力丸氏選

【読み】よみせ

【傍題】箱釣、など。(歳時記によつては、他にもある場合があります)

草野 力丸 / 後藤 岑生  
畑中とほる / 日野口 晃  
西谷 是空 / 吉田 紅一  
高橋 千恵 / 関 礼子  
敦賀 恵子 / 中村しおん  
松宮 梗子 / 南 美智子  
(以上、十二氏共同選)

◎推 薦 (5句)

玄人も勝てぬ夜店の詰め将棋

青 森 布施 協一

灯を低く夜店の隅に占い師

青 森 能登谷明子

干魚をくるむ朝刊夜店果つ

大 間 金田一一子

おねだりの子が泣いてをり夜店の灯

五所川原 松宮 梗子

綿菓子のおきで不思議見る夜店

八 戸 鈴木 莉花

◎佳 作 (20句)

夜店の児ウルトラマンを抱ひて寝る

深 浦 蒲田 吟竜

誘惑の灯りの匂ふ夜店かな

弘 前 木田多聞天

父の手をしっかりと握り夜店の子

む つ 杉山 畝女

面売りの他郷なまりや夜店の灯

青 森 対馬智恵子

孫に手を曳かれて夜店梯子せり

弘 前 岩田 秀夫

行き先は君にまかせる夜店かな

青 森 木村 駿佑

面売りのきつね貌なる夜店かな

鱈ヶ沢 南 美智子

さまざまな匂ひ吐き出す夜店かな

弘 前 高野万津江

明日あるを信じ夜店の灯のなかに

青 森 小野 寿子

病棟の吾子へ夜店の仮面提げ

青 森 太田 直樹

夢や恋売つてゐさうな夜店の灯

八 戸 高橋 千恵

手のひらの小銭見せ合ふ夜店の灯

青 森 秋元エミ子

幼子に勝負師の相夜店の灯

青 森 島田よう子

夜店行く吾も一匹の回遊魚

十和田 大川 恵子

発電機うなり続ける夜店かな

弘 前 鈴木とまと

宿題「夜店」

裸灯に昭和の匂ふ夜店かな

青 森 今村 光子

月光仮面見下ろしてゐる夜店かな

五所川原 斎藤今日子

手に這はす夜店の亀のこそばゆし

板 柳 くどうひろこ

はずれくじばかりが続く夜店かな

岩 手 畠山 一美

にんげんの面を売る鬼夜店の灯

弘 前 聖 雪

後藤岑生氏選

◎推 薦 (5句)

夜店匂ふ昭和レトロを手繰り寄せ

弘前 成田 圭子

御神籤咲く杜をはみだし夜店の灯

五所川原 櫛引 麗子

幼子に勝負師の相夜店の灯

青森 島田よう子

夜店のぞく古いアルバム繰るごとく

弘前 竹浪 克夫

アフリカもアジアも来たる夜店かな

青森 大平恵美子

◎佳 作 (20句)

玄人も勝てぬ夜店の詰め将棋

青森 布施 協一

夜店から闇を見入りしお面売り

青森 川村 英幸

一匙の糖綿菓子となる夜店

むつ 土岐 勝

飴細工の妙技の記憶夜店の灯

青森 吉田美枝子

夜店まつり少し離れて占ひ師

青森 千葉みちる

明日あるを信じ夜店の灯のなかに

青森 小野 寿子

夜店なら亡き子に逢へるかもしれず

青森 蝦名 石蔵

夜店かな射的のたるま噎び泣く

青森 橘川まもる

遠き日をぐいと引き寄せ夜店の灯

平川 後藤 朋子

裸電球つらなる夜店に昭和の影

弘前 阿保 子星

吾子癒えるわた飴買って夜店かな

青森 阿部 康子

背に夜店父母乗る 流灯堤川

青森 下山みのる

裸灯に昭和の匂ふ夜店かな

青森 今村 光子

神杉を妖しく包む夜店の灯

八戸 工藤 祐子

夜店でて神木の径畏れ踏む

青森 白鳥 光雄

童心のふつと夜店のりんご飴

岩手 大信田宏子

ピカチュウが昭和の顔でいる夜店

青森 佐々木落呼

夜店の灯村は清しき神の庭

平内 船橋 久枝

的を射て歓声上がる夜店かな

青森 工藤 邦子

我が半身少し先行く夜店の灯

青森 角田 貴彗

宿題「夜店」

## 畑中とほる氏選

◎推 薦 (5句)

参道を夜店に貸せし僧も客

むつ 寺岡 洋子

面売りのきつね貌なる夜店かな

鱒ヶ沢 南 美智子

狛犬を背中に夜店ひよこ売る

むつ 畑中 月穂

おねだりの子が泣いてをり夜店の灯

五所川原 松宮 梗子

御近所のあの顔この顔夜店の灯

青 森 藤田智恵子

◎佳 作 (20句)

フーテンの寅が来さうな夜店の灯

深 浦 草野 力丸

ジーパンの膝の破れや夜店の灯

青 森 池野みのる

強かに夜店のひよこ生きてをり

青 森 前田 良三

父の手をしっかりと握り夜店の子

むつ 杉山 畝女

通り過ぐ夜店を吾子の振り返り

むつ 飯田 知克

香具師つどひ地割り手早き夜店の灯

青 森 佐々木一湖

孫に手を曳かれて夜店梯子せり

弘 前 岩田 秀夫

夜店まつり少し離れて占ひ師

青 森 千葉みちる

子には子の母には母の夜店の灯

黒 石 稲部天津子

裸でんきゆう川面に揺るる夜店かな

青 森 明才地禮子

トランプを撃ち損ねたる夜店かな

青 森 鎌田 史子

稚抱いて母を助ける夜店の子

十和田 金澤 京子

とほき日のバナナねだりし夜店かな

岩 手 阿部ゆき子

夜店の灯菩薩の頬のほんのりと

弘 前 木村 詩織

少女らの肩のあらはに夜店ゆく

十和田 杉本喜和子

懐かしき顔の行き交ふ夜店かな

青 森 宮川 雅子

小さき声夜店のひよ子雄ばかり

青 森 黒滝 綾子

釣るこつを聞いてた吾娘の夜店かな

青 森 久慈 聡子

的を射て歓声上がる夜店かな

青 森 工藤 邦子

射的屋の灯りをよぎる復員兵

青 森 滋野 さち

日野口晃氏選

◎推 薦 (5句)

夜店の灯父となりたるひとの見ゆ

青 森 今 留里子

母さんと離れて歩く夜店かな

黒 石 志村 肯陽

夜店の灯途切れ田水の匂ひかな

八 戸 田端 千鼓

にんげんの面を売る鬼夜店の灯

弘 前 聖 雪

我が半身少し先行く夜店の灯

青 森 角田 貴彗

◎佳 作 (20句)

焼蕎麦のソース匂はず夜店かな

弘 前 千葉 新一

三陸のものに集る夜店かな

岩 手 菊池 節子

通り過ぐ夜店を吾子の振り返り

む つ 飯田 知克

胴巻へ財布をしまふ夜店の灯

十和田 江渡永見子

カラコロと下駄歌い出す夜店かな

青 森 谷本 桃子

面売りのきつね貌なる夜店かな

鱒ヶ沢 南 美智子

夜店なら亡き子に逢へるかもしれず

青 森 蝦名 石蔵

しゃがむ子の背中まんまる夜店の灯

五所川原 成田みどり

子には子の母には母の夜店の灯

黒 石 稲部天津子

夜店の灯父となりたるひとの見ゆ

青 森 今 留里子

夜店行く吾も一匹の回遊魚

十和田 大川 恵子

ハレとケの境分かつや夜店の灯

階 上 岩村多加雄

夜店から世界へ放てコルク弾

弘 前 坂本 幽弦

おねだりの子が泣いてをり夜店の灯

五所川原 松宮 梗子

最終日夜店の漢しわがれる

む つ 宮下 淑子

灯が点り夜店のお面笑ひ出す

八 戸 今 順子

酔客へ唸る夜店の発電機

青 森 佐東亜阿介

繋ぎ着て夜店のつまみ下げて行く

五所川原 工藤登詩子

イカスミのパスタ 町はずれの夜店

八 戸 笹田かなえ

我が家への角まがるまで夜店かな

秋 田 富樫 風花

宿題「夜店」

## 西谷是空氏 選

◎推 薦 (5句)

補導員の笑顔ものぞく夜店かな

弘前 斎藤ひでを

病棟の吾子へ夜店の仮面提げ

青森 太田 直樹

夜店なら亡き子に逢へるかもしれず

青森 蝦名 石蔵

夜店閉づ明日は遠野に行くといふ

おいらせ 野村 英利

盥水捨てて夜店のたたまるる

五戸 鈴木志美恵

◎佳 作 (20句)

父の手をしっかりと握り夜店の子

むつ 杉山 畝女

通り過ぐ夜店を吾子の振り返り

むつ 飯田 知克

人声や夜店の裏の真暗がり

十和田 日野口 晃

面売りの他郷なまりや夜店の灯

青森 対馬智恵子

面売りのきつね貌なる夜店かな

鱒ヶ沢 南 美智子

夜店の灯途切れし先の星明り

青森 榊 せい子

懐かしき顔が集まる夜店かな

青森 浜田しげる

御城下の闇に漂ふ夜店の灯

十和田 稲場 暁子

夜店出てやつと親子の歩となれり

青森 大澤 映城

手のひらの小銭見せ合ふ夜店の灯

青森 秋元エミ子

夜店の灯父となりたるひとの見ゆ

青森 今 留里子

ひやかしに夜店の指輪はめてみる

八戸 吉田千嘉子

ワンコイン握り駆け出す夜店かな

青森 三橋 聖

母につく嘘を覚えし夜店かな

青森 齊藤 君子

発電機うなり続ける夜店かな

弘前 鈴木とまと

おねだりの子が泣いてをり夜店の灯

五所川原 松宮 梗子

少女等のうなじ眩しき夜店かな

八戸 小野寺和子

神杉を妖しく包む夜店の灯

八戸 工藤 祐子

少女らの肩のあらはに夜店ゆく

十和田 杉本喜和子

独り身や故郷遠く夜店の灯

青森 山口 刃心



吉田紅一氏選

◎推 薦 (5句)

フーテンの寅が来さうな夜店の灯

深 浦 草野 力丸

強かに夜店のひよこ生きてをり

青 森 前田 良三

明日あるを信じ夜店の灯のなかに

青 森 小野 寿子

夜店なら亡き子に逢へるかもしれず

青 森 蝦名 石蔵

ピカチュウが昭和の顔でいる夜店

青 森 佐々木露呼

◎佳 作 (20句)

亡き母のふるさとつがる夜店立つ

青 森 杉田 美峰

おろしたての下駄からころと夜店かな

弘 前 桜庭 恵

ひよこ売り夢も売つてた夜店かな

青 森 秋谷美智子

参道を夜店に貸せし僧も客

む つ 寺岡 洋子

カラコロと下駄歌い出す夜店かな

青 森 谷本 桃子

そこはかと昭和のほひ夜店の灯

八 戸 山下 節子

遠き日をぐいと引き寄せ夜店の灯

平 川 後藤 朋子

裸でんきゅう川面に揺るる夜店かな

青 森 明才地禮子

木綿着て昭和の匂ふ夜店ゆく

青 森 岡本 功

車椅子の笑み戻したる夜店の灯

弘 前 寺沢すすむ

嫁ぐ娘とそぞろあるきの夜店かな

む つ 井手上省子

夜店のぞく古いアルバム繰ることく

弘 前 竹浪 克夫

フラダンス熱気あふるる夜店かな

青 森 柏原 和夫

鸚鵡よく客呼んでゐる夜店かな

つがる 石田かつら

空はまだ眠らぬ色の夜店かな

弘 前 畠山 容子

神杉を妖しく包む夜店の灯

八 戸 工藤 祐子

復興の兆し空地に夜店立つ

青 森 山本もとい

手に這はず夜店の亀のこそばゆし

板 柳 くどうひろこ

綿菓子のおきでる不思議見る夜店

八 戸 鈴木 莉花

独り身や故郷遠く夜店の灯

青 森 山口 刃心

## 高橋千恵氏 選

◎推 薦 (5句)

まじまじと久闊を叙す夜店の灯

弘 前 小杉 郁子

参道を夜店に貸せし僧も客

む つ 寺岡 洋子

面売りの他郷なまりや夜店の灯

青 森 対馬智恵子

鼻緒擦れ作りて帰る夜店かな

青 森 宮川 暢子

盥水捨てて夜店のたたまるる

五 戸 鈴木志美恵

◎佳 作 (20句)

千空も憲曠も来よ夜店の灯

弘 前 小田桐耕風

焼蕎麦のソース匂はず夜店かな

弘 前 千葉 新一

父の手をしつかり握り夜店の子

む つ 杉山 畝女

胴巻へ財布をしまふ夜店の灯

十和田 江渡永見子

いづこより湧き出し子等や夜店の灯

黒 石 檜森 てい

夜店の灯途切れし先の星明り

青 森 榊 せい子

長兄の後行く兄弟夜店かな

弘 前 藤田 正子

夜店なら亡き子に逢へるかもしれず

青 森 蝦名 石蔵

しゃがむ子の背中まんまる夜店の灯

五所川原 成田みどり

そこはかと昭和のほひ夜店の灯

八 戸 山下 節子

遠き日をぐいと引き寄せ夜店の灯

平 川 後藤 朋子

木綿着て昭和の匂ふ夜店ゆく

青 森 岡本 功

川風の橋を起点の夜店かな

八 戸 郡川 宏一

灯を低く夜店の隅に占い師

青 森 能登谷明子

嫁ぐ娘とそぞろあるきの夜店かな

む つ 井手上省子

裸電球つらなる夜店に昭和の影

弘 前 阿保 子星

母につく嘘を覚えし夜店かな

青 森 齊藤 君子

合宿の風呂の帰りの夜店かな

風間浦 蛸嶋八重子

発電機うなり続ける夜店かな

弘 前 鈴木とまと

綿菓子を口いっぱい夜店の子

八 戸 佐々木雅翔

関礼子氏選

◎推 薦 (5句)

買ふよりも見るを楽しむ夜店かな

青 森 中島 五郎

夜店行く吾も一匹の回遊魚

十和田 大川 恵子

復興の兆し空地に夜店立つ

青 森 山本もとい

鹽水捨てて夜店のたたまるる

五 戸 鈴木志美恵

にんげんの面を売る鬼夜店の灯

弘 前 聖 雪

◎佳 作 (20句)

千空に似たる後ろ手夜店の灯

五所川原 山内ひろ子

フーテンの寅が来さうな夜店の灯

深 浦 草野 力丸

夜店建ちまず恐竜が動き出す

弘 前 泉 風信子

寺巡る旅の途中の夜店かな

十和田 佐々木寿子

ヒョットコを照らす夜店のLED

青 森 牧 ひろし

面売りのきつね貌なる夜店かな

鱒ヶ沢 南 美智子

夜店の灯途切れし先の星明り

青 森 榊 せい子

点滴を終へて夜店の灯に並ぶ

青 森 小野いるま

病棟の吾子へ夜店の仮面掲げ

青 森 太田 直樹

夜店なら亡き子に逢へるかもしれず

青 森 蝦名 石蔵

御城下の闇に漂ふ夜店の灯

十和田 稲場 暁子

神の井を汲んで夜店の準備かな

弘 前 田辺 佳子

夢や恋売つてゐさうな夜店の灯

八 戸 高橋 千恵

夜店の灯川浪ゆらぎ崩れけり

青 森 橋本タエ子

初恋は紅い帯の子夜店の子

弘 前 秋山 邦男

母につく嘘を覚えし夜店かな

青 森 齊藤 君子

合宿の風呂の帰りの夜店かな

風間浦 蛸嶋八重子

鸚鵡よく客呼んでゐる夜店かな

つがる 石田かつら

ガスボンベ重しにもして夜店組む

八 戸 高橋 秀東

綿菓子のおきでる不思議見る夜店

八 戸 鈴木 莉花

宿題「夜店」

宿題「夜店」

敦賀恵子氏選

◎推 薦 (5句)

強かに夜店のひよこ生きてをり

青 森 前田 良三

夜店かな射的のたるま噎び泣く

青 森 橘川まもる

地球儀を撃てばひやりとする夜店

弘 前 坂本 吟遊

母につく嘘を覚えし夜店かな

青 森 齊藤 君子

夜店のぞく古いアルバム繰ることく

弘 前 竹浪 克夫

◎佳 作 (20句)

町なかにレゲエ流れて夜店立つ

五所川原 三橋 浩二

買ふよりも見るを楽しむ夜店かな

青 森 中島 五郎

夜店から闇を見入りしお面売り

青 森 川村 英幸

通り過ぐ夜店を吾子の振り返り

む つ 飯田 知克

参道の鳥居の幅に夜店立つ

八 戸 西川 無行

在りし日の母はモノクロ夜店の灯

十和田 中村しおん

夜店なら亡き子に逢へるかもしれず

青 森 蝦名 石蔵

要らぬのに買つてしまひし夜店かな

青 森 木村 栄子

手のひらの小銭見せ合ふ夜店の灯

青 森 秋元エミ子

幼子に勝負師の相夜店の灯

青 森 島田よう子

小銭の手父をすり抜け夜店の灯

十和田 佃 正子

ひやかしに夜店の指輪はめてみる

八 戸 吉田千嘉子

夜店行く吾も一匹の回遊魚

十和田 大川 恵子

稚抱いて母を助ける夜店の子

十和田 金澤 京子

発電機うなり続ける夜店かな

弘 前 鈴木とまと

空はまだ眠らぬ色の夜店かな

弘 前 畠山 容子

小走りの木履行き来せる夜店

青 森 長島 喜美

灯が点り夜店のお面笑ひ出す

八 戸 今 順子

盥水捨てて夜店のたたまるる

五 戸 鈴木志美恵

地に並べ夜店の指輪首飾り

八 戸 小林 凡石

中村しおん氏選

◎推 薦 (5句)

参道の鳥居の幅に夜店立つ

八戸 西川 無行

点滴を終へて夜店の灯に並ぶ

青森 小野いるま

紛れ込むひとり夜店の雑踏に

青森 清野 和子

虫を売る夜店電球低く吊り

八戸 小笠原聖子

我が半身少し先行く夜店の灯

青森 角田 貴彗

◎佳 作 (20句)

町なかにレゲエ流れて夜店立つ

五所川原 三橋 浩二

夜店で会ふ七十二年振りの友

八戸 野沢しの武

来年はあの娘と来たい夜店かな

青森 山本 和真

ほろ酔ひの父と繰り出す夜店かな

むつ 立花 夕海

しゃがむ子の背中まんまる夜店の灯

五所川原 成田みどり

裸でんきゅう川面に揺るる夜店かな

青森 明才地禮子

嫁ぐ娘とそぞろあるきの夜店かな

むつ 井手上省子

初恋は紅い帯の子夜店の子

弘前 秋山 邦男

叱られた子に暖かし夜店の灯

弘前 境 昭子

発電機うなり続ける夜店かな

弘前 鈴木とまと

少女らの肩のあらはに夜店ゆく

十和田 杉本喜和子

水を飲む夜店の中を帰り来て

十和田 小林 五月

母さんと離れて歩く夜店かな

黒石 志村 肯陽

夜店の灯落ちゆく杜の真闇かな

五所川原 森下 睦子

鹽水捨てて夜店のたたまるる

五戸 鈴木志美恵

灯の淡く夜店の端の占ひ師

八戸 佐藤 幸子

夜店見し余韻のままに仕舞風呂

青森 櫻庭 和浩

夜店の灯途切れ田水の匂ひかな

八戸 田端 千鼓

イカスミの Pasta 町はずれの夜店

八戸 笹田かなえ

にんげんの面を売る鬼夜店の灯

弘前 聖 雪

松宮梗子氏 選

◎推 薦 (5句)

フーテンの寅が来さうな夜店の灯

深 浦 草野 力丸

いづこより湧き出し子等や夜店の灯

黒 石 檜森 てい

夜店なら亡き子に逢へるかもしれず

青 森 蝦名 石蔵

はずれくじばかりが続く夜店かな

岩 手 畠山 一美

地に並べ夜店の指輪首飾り

八 戸 小林 凡石

面売りのきつね貌なる夜店かな

鱒ヶ沢 南 美智子

点滴を終へて夜店の灯に並ぶ

青 森 小野いるま

御城下の闇に漂ふ夜店の灯

十和田 稲場 暁子

ポケットの小銭ざわざわ夜店かな

平 川 菊池 睦子

灯を低く夜店の隅に占い師

青 森 能登谷明子

嫁ぐ娘とそぞろあるきの夜店かな

む つ 井手上省子

鼻緒擦れ作りて帰る夜店かな

青 森 宮川 暢子

夜店のぞく古いアルバム繰ることく

弘 前 竹浪 克夫

買ふよりも見るを楽しむ夜店かな

青 森 中島 五郎

まじまじと久闊を叙す夜店の灯

弘 前 小杉 郁子

孫に手を曳かれて夜店梯子せり

弘 前 岩田 秀夫

ピカチュウが昭和の顔でいる夜店

青 森 佐々木踏呼

バンドナのイケメンぬつと夜店かな

岩 手 木村 耀子

的を射て歓声上がる夜店かな

青 森 工藤 邦子

夜店たった二軒の村となりにつけり

弘 前 長尾 青竜

月光仮面見下ろしてゐる夜店かな

五所川原 斎藤今日子

◎佳 作 (20句)

三陸のものに集る夜店かな

岩 手 菊池 節子

灯が点り夜店のお面笑ひ出す

八 戸 今 順子

母さんと離れて歩く夜店かな

黒 石 志村 肯陽

繋ぎ着て夜店のつまみ下げて行く

五所川原 工藤登詩子

南美智子氏選

◎推 薦 (5句)

千空に似たる後ろ手夜店の灯

五所川原 山内ひろ子

夜店の灯途切れし先の星明り

青森 榊 せい子

遠き日をぐいと引き寄せ夜店の灯

平川 後藤 朋子

夜店の灯父となりたるひとの見ゆ

青森 今 留里子

盥水捨てて夜店のたたまるる

五戸 鈴木志美恵

御城下の闇に漂ふ夜店の灯

十和田 稲場 暁子

綿菓子のおす桃色や夜店の灯

むつ 高橋千夜湖

ちちははの手を取りはしやく夜店の子

青森 伊藤 芳博

手のひらの小銭見せ合ふ夜店の灯

青森 秋元エミ子

小銭の手父をすり抜け夜店の灯

十和田 佃 正子

紛れ込むひとり夜店の雑踏に

青森 清野 和子

初恋は紅い帯の子夜店の子

弘前 秋山 邦男

寺巡る旅の途中の夜店かな

十和田 佐々木寿子

夜店へと小銭握ってかけた頃

青森 石井 穂佳

長兄の後行く兄弟夜店かな

弘前 藤田 正子

あんちゃんの高き売り声夜店かな

青森 澁田 紀子

空はまだ眠らぬ色の夜店かな

弘前 畠山 容子

少女等のうなじ眩しき夜店かな

八戸 小野寺和子

童心のふつと夜店のりんご飴

岩手 大信田宏子

ピカチュウが昭和の顔でいる夜店

青森 佐々木踏呼

はずれくじばかりが続く夜店かな

岩手 畠山 一美

宿題「夜店」

◎佳 作 (20句)

青森 澁田 紀子

三沢 阿久津凍河

席題A  
「夕立」

木附沢麦青氏 選

◎天 位

水抜きしプールを叩き大夕立

八戸 高橋 秀東

◎佳 作 (20句)

野仏につつましき屋根夕立来る

青 森 前田 良三

夕立のような恋をも二つ三つ

青 森 高橋 圭子

故山いま懐らへこらへて夕立す

青 森 蝦名 石蔵

街騒の一切つつみ大夕立

藤 崎 清水 雪江

路地売りを袋叩きに夕立去る

青 森 山口せつ子

夕立中から踏みしたる放ち馬

十和田 稲場 暁子

大夕立野は叩かれて再生す

青 森 島田よう子

夕立や沓脱ぎ石を洗ひをり

青 森 赤平久美子

庭石をすつぽり洗ひ夕立去る

青 森 能登谷明子

夕立上げ土むんむんと兜太来る

十和田 大川 恵子

【読み】 ゆうだち、ゆだち  
【傍題】 白雨、驟雨、夕立雲、夕立風、  
など。(歳時記によつては、  
他にもある場合があります)

木附沢麦青氏 選

木村 秋湖氏 選

小野 寿子氏 選

金田一子氏 選

◎人 位

夕立に囃されてゐる手漕舟

板 柳 くどうひろこ

◎秀 逸 (5句)

枝打の杉山匂ふ夕立あと

十和田 中村しおん

海峡を叩きて来たる大夕立

八 戸 高橋 千恵

夕立が築百年の家叩く

三 沢 阿久津凍河

何やらを頭に走る夕立中

青 森 樋口 裕子

燈台を丸洗ひせる大夕立

む つ 畑中とほる



席題A「夕立」

夕立去り草の匂ひの新たなり

弘前 対馬 迪女

夕立や五百羅漢の苦笑ひ

青森 三橋 聖

葬列の崩れず進む夕立中

むつ 畑中 月穂

夕立を乗りきってきし部活の子

十和田 下山 延子

柳刃一本研ぎ上ぐ夕立去るらしき

八戸 吉田 敏夫

夕立の気配や牛のやをら起つ

五戸 鈴木志美恵

居酒屋へ誘ふがごとき驟雨かな

青森 櫻庭 和浩

夕立や微動だにせず牧の牛

岩手 大信田宏子

夕立を抱えて走るふたりづれ

平内 秋山由美子

夕立来て石蹴りの子らちりぢりに

青森 工藤 邦子

木村秋湖氏 選

◎天 位

見馴れたる山に日射しや夕立あと

青 森 明才地禮子

◎地 位

山裾の広き故郷夕立ちぬ

青 森 川村 英幸

◎人 位

大夕立畝百本の土けぶり

む つ 戸川美重子

◎秀 逸 (5句)

夕立の通りしあとの旅の町

青 森 杉田 美峰

枝打の杉山匂ふ夕立あと

十和田 中村しおん

海峡を叩きて来たる大夕立

八 戸 高橋 千恵

海峡に緞帳を引く夕立かな

青 森 築館 秋水

夕立を乗りきってきし部活の子

十和田 下山 延子

◎佳 作 (20句)

夕立来て海草担ぐ蟹家族

大 間 筑田まさ子

顔を打つ一滴よりの夕立急

青 森 中島 五郎

学園の尖る鉄柵大夕立

弘 前 斎藤ひでを

サッカーボール置き去りのまま大夕立

弘 前 桜庭 恵

トンネルを抜ければ夕立跡もなく

十和田 江渡永見子

端居して夕立もまたよきものぞ

田舎館 田口 昭子

雨宿り夕立恨むふりをして

青 森 佐藤 玲

夕立の過ぎて日暮れの家路かな

青 森 吉田美枝子

鴉色に暮るる山並夕立あと

青 森 榎 せい子

大夕立母への粥をふきこぼす

青 森 小野 寿子

路地売りを袋叩きに夕立去る

青 森 山口せつ子

夕立ちの後のきうりが青を増し

青 森 渡邊こあき

夕立晴立読み客の離れゆく

岩 手 菊地 十音

夕立去り草の匂ひの新たなり

弘 前 対馬 迪女

出航にしばし間のある夕立晴

青 森 千葉 禮子

また一つ峰を消しゆく夕立かな

弘 前 葛西 小櫻

水抜きしプールを叩き大夕立

八 戸 高橋 秀東

乗車券購入しての大夕立

岩 手 木村 耀子

校庭のすみに鉄棒夕立風

秋 田 富樫 風花

過疎の村一揆のごとき大夕立

青 森 滋野 さち

小野寿子氏 選

◎天 位

少年の匂ひ強まる夕立あと

弘前 小田桐妙女

◎地 位

縄文の土の香ゆらと夕立あと

青森 山口 刃心

◎人 位

夕立あと軽く羽織りし亡母のもの

五所川原 櫛引 麗子

◎秀 逸 (5句)

人葬り来て夕立の足を拭く

弘前 泉 風信子

夕立を逃れし蝶の息遣ひ

十和田 日野口 晃

夕立のあとのきれいなこの世かな

弘前 矢本 大雪

夕立上げ土むんむんと兜太来る

十和田 大川 恵子

夕立の去って昭和の匂ひかな

八戸 田端 千鼓

◎佳 作 (20句)

夕立の落ち着く頃の本音かな

弘前 小田桐耕風

少年の均す砂場へ夕立くる

深浦 蒲田 吟竜

夕立ちに打たれ類想失せにけり

深浦 草野 力丸

機関車を洗ひ上げたる大夕立

弘前 千葉 新一

野仏につつましき屋根夕立来る

青森 前田 良三

顔を打つ一滴よりの夕立急

青森 中島 五郎

トンネルを抜ければ夕立跡もなく

十和田 江渡永見子

枝打の杉山匂ふ夕立あと

十和田 中村しおん

夕立や微動だにせぬ岬の駒

むつ 立花 夕海

高校の自転車置き場大夕立

弘前 寺沢すすむ

夕立去り草の匂ひの新たなり

弘前 対馬 迪女

野良猫と逃げ込む寺や大夕立

大間 金田一一子

葬列の崩れず進む夕立中

むつ 畑中 月穂

大夕立蜘蛛の子のごと皆散れり

弘前 境 昭子

夕立にも匂ひあるらし来る予感

青森 中谷 恭子

夕立の気配や牛のやをら起つ

五戸 鈴木志美恵

夕立に掴まつてゐる媪の歩

五所川原 工藤登詩子

夕立や母の小言も消えてゆく

岩手 畠山 一美

過疎の村一揆のごとき大夕立

青森 滋野 さち

燈台を丸洗ひせる大夕立

むつ 畑中とほる

金田一子氏選

◎天位

燈台を丸洗ひせる大夕立

むつ 畑中とほる

◎佳作(20句)

夕立の落ち着く頃の本音かな

弘前 小田桐耕風

夕立あと軽く羽織りし亡母のもの

五所川原 櫛引麗子

◎地位

夕立ちに打たれ類想失せにけり

深浦 草野力丸

洗濯物隣は留守の夕立かな

弘前 大瀬響史

反芻の牛のごろ寝へ夕立来

つがる 石田かつら

◎人位

夕立の止みて艶増す岡の像

むつ 飯田知克

大夕立ポップコーンのやうに跳ねてくる

青森 高木良子

父と居てなほ母恋ひし驟雨かな

八戸 小野寺和子

◎秀逸(5句)

少年の均す砂場へ夕立くる

深浦 蒲田吟竜

夕立のような恋をも二つ三つ

青森 高橋圭子

夕立の去りたる遺跡巡りかな

青森 木村秋湖

夕立や命短し恋激し

五所川原 福士信之

石獣の口がのみこむ夕立かな

鱒ヶ沢 南美智子

夕立が来て黙禱をほどかれる

青森 守田啓子

路地売りを袋叩きに夕立去る

青森 山口せつ子

夕立に急かされ走る八十歳

青森 千葉みちる

居酒屋へ誘ふがごとき驟雨かな

青森 櫻庭和浩

腹ゆすり妻を走らす驟雨かな

平川 後藤朋子

夕立に立ち尽くしたるハイヒール

青森 太田直樹

夕立を抱えて走るふたりづれ

平内 秋山由美子

夕立上げ土むんむんと兜太来る

十和田 大川恵子

夕立中から踏みしたる放ち馬

十和田 稲場暁子

席題B 「水母・海月」

【読み】くらげ

徳才子青良 氏 選

◎天 位

水底の水母かなしい喉仏

青 森 後藤 岑生

◎佳 作 (20句)

花街に水母のあなたは首飾り

青 森 千葉 芳醇

◎地 位

くらげ浮く行方不明の万華鏡

青 森 岡部 文子

水母浮くさすらふ我を包みけり

弘 前 橘 すなお

◎人 位

騙すこと知らぬ水母の三度笠

青 森 川村 英幸

鬱の吾に海月一切拘はらず

八 戸 野沢しの武

海月浮く崑怒哀樂もなき月日

青 森 佐々木一湖

◎秀 逸 (5句)

海月浮く舳先の揃ふ船だまり

む つ 飯田 知克

三陸の魂のただよふ水母かな

黒 石 檜森 てい

藍色の色深ければ水母くる

青 森 浜田しげる

親といふやつかいなもの海月浮く

五所川原 富士 信之

食ひちぎる苦き昭和の大海月

弘 前 阿保 子星

無味無臭くらげのやうな男かな

鱈ヶ沢 南 美智子

海中は大きな五線紙水母浮く

む つ 畑中 月穂

泣きたくて海にきました干くらげ

野辺地 後藤 瑞江

ずぶ濡れて会いに行きたい海月かな

青 森 守田 啓子

にくしみの消える日あるや水母ゆれ

黒 石 稲部天津子

席題B「水母・海月」

自由とは寂しき事と海月浮く

平川 後藤 朋子

何時よりか水母を飼へり胸の辺に

八戸 郡川 宏一

洞爺丸吞みし海峡海月かな

弘前 木村あさ子

悲しげに子の手の平の海月かな

青森 村山 いう

生も死も波間に任す海月かな

八戸 小野寺和子

何故の母といふ字の水母かな

青森 樋口 裕子

泳げない海月と回転する地球

黒石 志村 肯陽

後戻り出来ぬ齡や大海月

八戸 鈴木 莉花

懐に飛び込む海月誰のもの

平内 秋山由美子

貴男といふ海に溶けゆく水母かな

弘前 小田桐妙女

大瀬響史氏選

◎天位

海月にも大志ありけり十八歳

青森 前田 良三

◎地位

海鳴りがやまず水母の嗚咽かな

黒石 熊沢はちえ

◎人位

水母には水母の悩み夜の海

むつ 永倉 みつ

◎秀逸(5句)

海月てふ生きる白さの水紋様

弘前 泉 風信子

三陸の魂のただよふ水母かな

黒石 檜森 てい

今日だけはくらげになってみたい夜

青森 大矢 鈴花

無味無臭くらげのやうな男かな

鱒ヶ沢 南 美智子

漂ふも海月に生きる力あり

青森 澁田 紀子

◎佳作(20句)

海に出て海月の自由いやになる

青森 岡本 功

水槽の水母は海の夢をみる

八戸 佐藤 幸子

泳げない海月と回転する地球

黒石 志村 肯陽

水母見る赤子の指の力かな

弘前 葛西 小櫻

迷ふこと身の内秘めて海月かな

岩手 南 その子

さすらひの旅が好です浮海月

つがる 石田かつら

自由とは寂しき事と海月浮く

平川 後藤 朋子

飽食に生きて海月の仲間なる

階上 伊藤 幻人

水母の声聞きたし月の照る夜は

岩手 二階堂光江

透けてゐることが海月の自己主張

弘前 聖 雪

海戦をくらげ語らず浮き沈み

青森 齊藤 君子

くらげ浮く行方不明の万華鏡

青森 岡部 文子

にくしみの消える日あるや水母ゆれ

黒石 稲部天津子

海月見て骨ある人になれと母

五所川原 工藤登詩子

わだつみの手の内にあり群海月

弘前 小杉 郁子

再びの職や海月のやうに生き

青森 築館 秋水

永劫に水に戻れぬ水母かな

青森 藤田智恵子

僕の夢海月のようにフワフワと

青森 木村 駿佑

来し方を問はれてをりぬ海月浮き

むつ 高橋千夜湖

漂ひて海月にありし微熱かな

弘前 高野万津江

吉田千嘉子氏選

◎天位

岸壁に海月ぶちまけ網を干す

大間 金田二一子

◎地位

ゆつくりと朝日落け込む海月かな

弘前 桜田花音

◎人位

水槽の海月見て居る手術前

青森 櫻庭和浩

◎秀逸(5句)

水の地球海月と共に漂へり

十和田 小向萩月

漂ひて海月にありし微熱かな

弘前 高野万津江

透く海に透きし海月の哀しとも

青森 樋口栄子

打ち上がる水母に波の二重三重

風間浦 蛸嶋八重子

戦艦のねむりし海や水母浮く

八戸 小笠原聖子

◎佳作(20句)

水母掬ふ命の芯を知らぬまま

弘前 笹原郁子

骨のなき子と言はれたり水母見る

弘前 木田多聞天

漂ふも諾ふも良し海月浮く

弘前 成田圭子

水母揺れ昨日の決意また揺れる

青森 谷本桃子

領海も公海もなき海月かな

青森 太田直樹

陸奥湾の夕陽に染まる海月かな

むつ 立花夕海

海月にもきつとあるはず骨つ節

青森 島田よう子

波よりもさみしき色の海月浮く

青森 能登谷明子

海月似の夫とくらしして半世紀

むつ 井手上省子

大海月三葉虫を祖と仰ぎ

弘前 秋山邦男

網引けば小舟傾ぐる海月かな

階上 岩村多加雄

うらぶれる水族館の水母かな

弘前 佐々木朴花

刺網の海月の数に傾ぐ船

八戸 高橋秀東

裏返る海月破船を棲み処とし

むつ 宮下淑子

最果ての月の赤らむ水母かな

青森 長島喜美

漂ふと見せて水母に狩ごころ

八戸 今順子

軍艦の影濃き埠頭海月浮く

五戸 鈴木志美恵

水母浮く午後のまどろみあるところ

八戸 笹田かなえ

本当は強靱なりと水母言ふ

弘前 石崎志亥

水母食う旋毛ふたつは父譲り

青森 山口刃心



対馬迪女氏選

◎天位

わだつみの手の内にあり群海月

弘前 小杉 郁子

◎佳作(20句)

いつの間に海月囲みし潜水艦

大間 筑田まさ子

岸壁に海月ぶちまけ網を干す

大間 金田一一子

◎地位

ゆつくりと朝日落け込む海月かな

弘前 桜田 花音

なにごともなく流れる海月かな

青森 杉田 美峰

最果ての月の赤らむ水母かな

青森 長島 喜美

◎人位

漂ふと見せて水母に狩ごころ

八戸 今 順子

荒磯のくぼみに残る海月かな

むつ 寺岡 洋子

手招きのやうに潮ゆく水母かな

十和田 杉本喜和子

◎秀逸(5句)

老漁夫の突堤に佇ち海月見る

青森 布施 協一

震災のあとの無数の水母かな

弘前 矢本 大雪

底引きの網重くする大海月

青森 佐東亜阿介

平和かなむつ軍港に海月浮く

深浦 草野 力丸

軍港に寄り来し海月すぐ去りぬ

青森 福井千恵子

水槽のくらげは海の夢をみる

五戸 鈴木志美恵

空中に浮きたき海月浮遊せり

青森 池野みのる

領海も公海もなき海月かな

青森 小野 寿子

水槽の海月見て居る手術前

八戸 佐藤 幸子

海月浮く舳先の揃ふ船だまり

青森 飯田 知克

フェリー発つ暫しの間海月浮く

弘前 花田 晶子

たまゆらの光を見せて夜の海月

岩手 大信田宏子

水底の昏さ厭ひて海月浮く

八戸 吉田千嘉子

海月にもきつとあるはず骨つ節

青森 島田よう子

海月寄る仏ヶ浦の船着場

むつ 畑中とほる

